

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について
病害虫発生予察特殊報（第2号）を下記のとおり発表したの送付いたします。

令和元年度 病害虫発生予察特殊報（第2号）

令和元年12月2日
愛媛県病害虫名 ミツユビナミハダニ (*Tetranychus evansi* Baker & Pritchard)

作物 ばれいしょ

特殊報の内容 愛媛県における発生の初確認

1 発生地域 松山市

2 発生経過

令和元年10月10日、松山市のばれいしょ圃場においてハダニ類の多発生が確認された。ばれいしょに寄生しているハダニ類を採取し、農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、10月18日に県内未発生のミツユビナミハダニであることが確認された。その後、10月23日から11月21日にかけて寄主植物となり得るばれいしょ、なす、トマトでの発生を調査したが確認されなかった。

本種は、国内では平成13年に大阪府及び京都府のイヌホオズキで初めて発見され、現在までに関東以西の13都府県（栃木県、群馬県、東京都、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、高知県、福岡県、長崎県、鹿児島県、沖縄県）において、なす、トマト及びばれいしょ等のナス科植物での発生報告がある。

3 形態及び生態

(1) 本種の体長及び体色は、雌成虫が0.6mm程度でくすんだ橙色～濃橙色、雄成虫が0.5mm程度で白～淡橙色である。休眠性は示さず、耐寒性は低いとされているものの、本県の露地栽培では、わずかな成虫が越冬する可能性がある。

(2) ナミハダニ (*Tetranychus*) 属の中でも非常に高い増殖力を有し、適切な防除を行わなかった場合には、被害が急速に拡大する恐れがある。

(3) 寄主植物は、ばれいしょ、トマト、ミニトマト、なす、ピーマン、とうがらし、パプリカ、イヌホオズキ、ワルナスビ等のナス科植物に特化している。

4. 被害の特徴

主に葉裏に寄生し、発生初期には葉表に小斑点を発生させ、多発すると寄生部位が白化し、高密度になると枯死に至る。

5. 防除対策

(1) 圃場周辺や圃場内のイヌホオズキやワルナスビ等のナス科雑草は、ミツユビナミハダニの発生源となる可能性があるため除草に努める。

(2) ばれいしょでは本種に対する登録農薬は無いが、野菜類又はイモ類登録で気門封鎖型殺虫剤の登録がある（表1）。また、なすやトマトで発生した場合、各作物に適用登録のある殺ダニ剤の効果は高いとされるが、増殖能力が高いため早期に防除を行う。

(3) ハダニ類の捕食天敵であるミヤコカブリダニやチリカブリダニは、ミツユビナミハダニをほとんど捕食しないため、本種に対する防除効果は期待できない。



ミツビナミハダニのばれいしょ被害株



多寄生葉（葉表）



多寄生葉（葉裏）



ミツビナミハダニ雌成虫
体長 0.6mm 程度

表1 ハダニ類に対してばれいしょで利用できる薬剤一覧

農薬の種類	希釈倍率	使用時期	使用回数
粘着くん液剤	100倍	収穫前日まで	-
エコピタ液剤	100倍	収穫前日まで	-
アカリタッチ乳剤	2000~3000倍	収穫前日まで	-
サンクリスタル乳剤	300~600倍	収穫前日まで	-
ムシラップ	500倍	収穫前日まで	-
フーモン	1000倍	収穫前日まで	-
サフオイル乳剤	300~500倍	収穫前日まで	-